

# 樽商大生「小樽観光に貢献」

## 旧嶋谷倉庫 カフェに変身

### 地元経済人が運営支援

【小樽】小樽市の指定歴史的建造物「旧嶋谷倉庫」(色内1)を活用し、小樽商科大の学生が29日、新たなカフェを開業する。観光地・小樽運河のすぐ近くで、同市内の経済人が学生らに持ちかけて実現した。開業準備に追われる学生たちは「小樽の観光に貢献したい」と意気込んでいる。

同倉庫は海運業の旧嶋谷汽船が1892年(明治25年)に建設。木で骨組みを造り外壁に石を積み構造で広さ約70平方メートル。小樽運河の西側にあり、倉庫を利用して近年はアイスクリーム店が営業していたが、新型コロナウイルス禍で2020年に閉店。その後は空き店舗となっていた。

カフェ開業は、サッカー・J1チームの運営会社コンサドレ(札幌)顧問で、小樽在住の本間哲平さん(69)が昨春秋、同大の非常勤講師多田伶さん(31)に持ちかけたのがきっかけ。消

費者行動を研究する多田さんの協力呼びかけにゼミ生らが賛同した。同12月に本間さんらの出資で運営会社を設立し、今年2月以降、学生たちが中心になって改装を進めてきた。

店名は「嶋谷カフェ」。多田さんのゼミの学生や元ゼミ生が経営を主導し、アルバイト従業員としても働く。メニューの中心はソフトクリームで、ミルク(450円)、チョコ(同)など定番のほか、砕いたあめをミルクソフトに散らして小樽のガラスを表現した「嶋谷硝子ソフト」(500円)も販売する予定だ。

マーケティングを学べるよう、学生が考案する月替わりのソフトも用意。夏にはパフェの提供も検討している。参加予定の学生は約40人。運営会社取締役で同大4年の今彩乃さん(21)は「小樽らしい歴史的建造物を活用し、観光客の滞在時間を延ばして地域を盛り上げたい」と強調する。

多田さんは「学生には店の運営を通じて実際のマーケティングを感じてほしい」と期待している。営業は午前11時～午後6時。月、木曜定休。大型連休中は5月1、2日を除き毎日営業する。

歴史的建造物「旧嶋谷倉庫」を活用してカフェを開業する小樽商科大生たち



(矢野伶奈)